



令和5年度

府中市立若松小学校 学校経営計画

府中市立若松小学校長 小林 力

基本理念

子どもの「学びたい」をはぐくみ、かなえる若松小

～すべての関係者の主体性により実現する～

教育目標

- ◎ 自ら考える子（必要な知識を身に付け、自ら考え、判断し、行動する児童）
： 知識、自律的活用力、役割認識・遂行力
- 思いやりのある子（自他の違いを認め、相手を尊重できる児童）： 自我理解、関係形成力
- たくましい子（目標をもち、課題や困難に立ち向かう強い心と体をもつ児童）： GRIT※1

1 目指す学校（経営方針）

（1）「第3次府中市学校教育プラン」との関連について

令和4年（2022年）4月から令和12年（2030年）3月までを計画期間とし、府中市の教育施策の道筋を示す「第3次府中市学校教育プラン」には、「全ての子供が、人格の完成に向け、ふるさと府中に誇りを持ち、知性や感性を磨き、豊かな人間性を備え、心身ともに健康に成長していくために、教育委員会、学校、家庭、地域、関係機関が相互に連携、協力、役割分担、支援しながら子供たちの育成を担っていきます。」との基本理念が示されている。

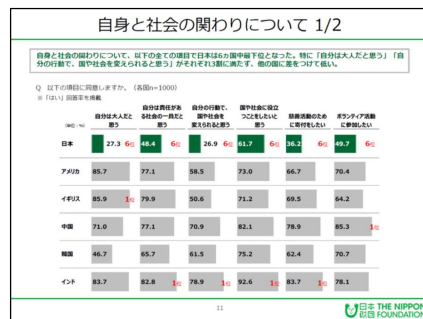
また、目指す人間像として、

- 【人権感覚と規範意識】他者も自分も大切に、思いやりと規範意識のある人
 - 【社会的な資質・能力】社会の一員としての自覚を持ち、社会に貢献しようとする人
 - 【確かな学力】自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人
- が示されている。

しかし、2022年に日本財団が実施した「18歳意識調査『第46回一国や社会に対する意識（6カ国調査）-1』」等に目を向けると、日本の若者は、世界の中だけでなく、アジアの中でも、「将来に夢を持っている」や、「自分で国や社会を変えられると思う」と回答した割合が極端に低いことが分かる。

本校では、これらの方針や児童育成上の課題を受け、地域の教育環境を生かしながら、子どもたちが、地域の中で、地域のためにできることを主体的に考えながら行動する活動等を通して、第3次府中市学校教育プランの基本理念を達成していく。

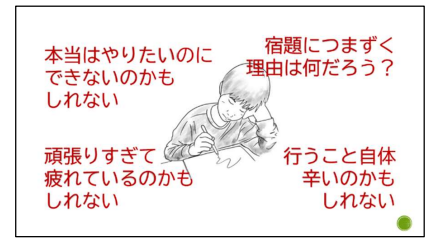
その際、スクール・コミュニティの機能を十分に活用し、保護者や地域住民の主体的な支援や専門機関や民間企業の協力を得ながら、子どもたちが社会を意識できる“本物”の教育活動を提供する。



※1 GRIT: Guts (気概)、Resilience (粘り強さ)、Initiative (自発性)、Tenacity (執念)

（2）「子どもの『学びたい』をはぐくみ、かなえる」ために

子どもたちは本来、好奇心旺盛で「学ぶ」ことに主体的なはずであるが、学校での子どもたちの中には、やる気なさそうに過ごしていたり、なかなか学校に来ることができなかったりする者もいる。本校では、こうした子どもたちに対して、教職員が、「どうしてだろう」「どうしたらいいだろう」と主体的に考え、「個別最適な学び」を実現することで、子どもの「学びたい」気持ちをはぐくみ、かなえていく。



中央教育審議会は、令和5年3月8日の第134回総会において「次期教育振興基本計画について（答申）」を取りまとめた。その中で、予測が困難な時代（「VUCA※2」の時代）である2040年以降の社会を見据えた教育政策におけるコンセプトとも言うべき総合的な基本方針として「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」を掲げている。

特に、この「日本社会に根差したウェルビーイング」については、その要素として、「幸福感（現在と将来、自分と周りの他者）」、「学校や地域でのつながり」、「協働性」、「利他性」、「多様性への理解」、「サポートを受けられる環境」、「社会貢献意識」、「自己肯定感」、「自己実現（達成感、キャリア意識など）」、「心身の健康」、「安全・安心な環境」などが挙げられており、これらを教育を通じて向上させていくことが重要であるといわれている。

中でも「多様性への理解」については、一人ひとりの子どもたちの多様な才能を伸ばす「個別最適な学び」の実現を目指す本校においては最も重要な課題と捉え、子どものみならず子どもを取り巻く大人も含めて、多様性を受け入れる寛容で成熟した存在となるよう、取組を推進する。

（3）取組の方向性

開校51年目となる令和5年度の教育活動を進めるにあたり、子どもの「学びたい」気持ちをはぐくみ、かなえていくために、令和4年度の学校評価の結果を受け、以下のキーワードを設定するとともに、「安全・安心」「授業改善」「地域協働」の3つの視点で、学校の教育活動の充実を図る。

<9つのキーワード>

- 1 個に応じた指導の一層の推進
- 2 課題解決型の教育活動“PBL”（Project Based Learning）の推進
- 3 持続可能な教育活動“若 ShowTime”等の推進
- 4 規範意識の醸成
- 5 児童の心の状況の把握
- 6 保護者・地域・外部との連携の強化
- 7 教育目標の共有化とすべての関係者の主体性の涵養
- 8 校内研修の充実による共通理解の徹底
- 9 “働き方改革”の一層の推進

<3つの視点>

安全・安心

- ・子どもの学ぶ権利を守る
- ・危機管理
- ・基本的生活習慣

授業改善

- ・「学びたい」をはぐくむ授業
- ・情報・ノウハウの共有化

地域協働

- ・「学びたい」をかなえる支援
- ・情報発信・情報共有

上記の実現については、教育委員会等の関係諸機関と連携するとともに、校長裁量である学校経営支援事業を活用した人材配置等により、教師が子ども一人ひとりに応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供する。

※2 Volatility (変動性)、Uncertainty (不確実性)、Complexity (複雑性)、Ambiguity (曖昧性)

2 中期的目標と方策 及び 3 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

●基本理念

子どもの「学びたい」をはぐくみ、かなえる若松小～すべての関係者の主体性により実現する～

●教育目標

- ◎ 自ら考える子（必要な知識を身に付け、自ら考え、判断し、行動する児童）
： 知識、自律的活用力、役割認識・遂行力
- 思いやりのある子（自他の違いを認め、相手を尊重できる児童）： 自己理解、関係形成力
- たくましい子（目標をもち、課題や困難に立ち向かう強い心と体をもつ児童）： GRIT

(2) 中期的目標と重点目標 及び 方策

視点1「安全・安心」	中期的目標と方策
● 子どもの学ぶ権利を守る ・ 安心して登校できる学校 ・ 規範意識の醸成、学習マナーの徹底 ・ 教職員の服務事故の防止	● 危機管理 ・ 学校の新しい生活様式への対応 ● 基本的生活習慣 ・ 「あいさつ☆若松」

〔重点目標と方策〕

安心して登校できる学校

子どもたちが互いにかげがえのない一人として認め合い、尊重し合う態度を育む道徳教育や人権教育を一層充実するとともに、教職員が子どもたちの心の変化に気付くことができるよう、タブレット端末を活用した心理アンケート“こころの天気予報”の活用を進める。

規範意識の醸成、学習マナーの徹底

子どもたちの教育を受ける権利を保障していくため、子どもたち一人一人の規範意識を育み学習マナー（児童が努力する他者を思いやり授業中の自らの態度を律すること）を定着できるよう、教職員が共通理解の下指導に当たる。

教職員の服務事故の防止

信頼される教職員集団を目指し、服務事故防止月間等に合わせて“自分事”として教職員が服務事故を考えられるようにするとともに、具体的な方策により事故を防止する。

視点2「授業改善」	中期的目標と方策
● 「学びたい」をはぐくむ授業 ・ 子どもの気持ち・思考に寄り添う指導 ・ 個別最適化学習への挑戦 (校内研究・GIGAスクール構想)	● 情報・ノウハウの共有化 ・ 児童理解・指導内容の共有 ・ 校内研究・研修の充実 ・ 学校経営支援事業の活用

〔重点目標と方策〕

子どもの気持ち・思考に寄り添う指導

すべては子どもたちの「学びたい」のために。子どもたちが“本物”に触れながら主体的に学ぶための授業を進めるとともに、児童の思考に寄り添い、常に指導を改善していく。

個別最適化学習への挑戦

タブレット端末の機能やデジタルドリル等を活用した“指導の個別化”と子ども自身が学習が最適となるよう調整する“学習の個性化”を進めるとともに、授業のユニバーサルデザイン化を図り、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一層推進する。

視点3「地域協働」	中期的目標と方策
● 「学びたい」をかなえる支援 ・ 行事、体験学習	● 情報発信・情報共有 ・ スクール・コミュニティ協議会、HP

〔重点目標と方策〕

「学びたい」をかなえる支援（コミュニティ・スクールの推進【府中市施策】）

社会に開かれた教育課程の実現を目指し、スクール・コミュニティ協議会を活用した情報共有、学校評価の活用とともに、スクール・コミュニティ協議会に係る地域人材や府中市社会福祉協議会、民間企業等と積極的に連携し、子どもたちの「学びたい」気持ちをかなえる。

その他（教育施策関連）	中期的目標と方策
● 小中連携、一貫教育の推進 ・ 浅間中学校、府中第二小学校との連携 ・ 保幼小連絡会議の設定	● “未来へつなぐ府中2020レガシー”の推進 ・ 障害者理解教育

〔重点目標と方策〕

小中連携、一貫教育の推進【府中市施策】

浅間中学校区における目指す子ども像と育成すべき力を共有し、学習に取り組む心構えや態度について共通に指導するなど、9年間の系統性と継続性をもたせて「学び」と「育ち」の充実を図る。教員同士の情報共有や協議に加え、地域で連携して引渡訓練を実施する。

また、スタートカリキュラムの実施を主軸とした保幼小連絡会議を、近隣の就学前施設の職員を招いて5月及び2月に実施する。

“未来へつなぐ府中2020レガシー”の推進【府中市施策】

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会やラグビーワールドカップ2019東京大会のレガシーとして、「多様性を受容する成熟した児童の育成」に向けた“手話授業”を中心とした障害者理解教育（オリンピック・パラリンピック教育）や「持続可能な社会の作り手の育成」にむけた浅間山を活用した教育活動（ふるさと学習）の充実を図る。

学校の働き方改革の推進	中期的目標と方策
● イクボス宣言 ● 副校長等校務改善事業の活用	● 校務の適正化

〔重点目標と方策〕

イクボス宣言

長時間労働は正をコンプライアンスの一つとして認識して校長自ら「イクボス宣言」を行い、指示の明確化やICTを活用した業務の効率化、休暇を取得しやすい環境の整備に取り組むとともに、教職員がゆっくり過ごす「@ホームデイ」や「リフレッシュ休暇」を設定する。

副校長等校務改善事業の活用【府中市施策】

副校長や教員の事務負担を軽減するとともに、生み出された時間を学校経営や子どもと向き合う時間、教材研究等準備にあて、教育の向上を目指す。

校務の適正化

経営支援部会議を組織し、校務分掌の平準化、ICT活用による業務の効率化（会議録の電子化やスケジュール等の共有化）、会議の精選と校務のための時間の創出等を進める。